

2006年10月30日
東京ガス株式会社

2006年度中間決算説明会 主なQ&A

Q: パロマ問題への対応を含め、安全対策に資金を投入するとあるが、具体的な対策の中身と金額を教えてください。

A: 今回の問題については、ガスエネルギーの安全性に対して、お客さまの不安が増大するなどの影響があったものと認識している。そのため、お客さまの信頼回復を目的に、安全性に懸念のある機器の取替え促進や、当社や業界で取り組んでいる安全対策のPRに努めていく。安全性に懸念のある機器の取替え促進については、詳細はまだ検討中であるものの、3年間で最大100億円の資金を投入する予定。

Q: LNGプロジェクトであるサハリンに関して、生産開始が遅れる等の報道があるが、LNG(液化天然ガス)調達計画に影響は無いのか？

A: 現在情報収集を行っているところであるが、2008年度の実産開始が遅れるという話は正式にはきていない。仮に生産開始が遅れたとしても、通常はプロジェクト立ち上がり時期の購入数量は少ないため、大きな影響は受けないと考えている。

Q: 2006年度～2010年度中期経営計画において、総分配性向の目標を60%と打ち出しているが、増配を含む今後の見通しはどうか。

A: 総分配性向60%^{*}は、当年度の配当額と次年度の自社株取得額をあわせたものを当年度の純利益で割ったもの。したがって、本日発表した今年度通期の利益計画が達成できれば、それに応じた利益配分をしていく。なお、配当に関しては、安定配当をベースに中期経営計画期間中の増配を目指していく。

^{*}n 総分配性向={n年度配当+(n+1年度自社株取得)} ÷ n年度当期純利益

以上